先住民族の森と生活を取り戻すプロジェクト

始まりました！

知らずに破壊していた原生林の修復

ブハガンとブロコンの森と共生プロジェクト

47号で「緑の募金」交付決定とお知らせしたダグマ山系スルタンクダラト州の二つの村では、先祖伝来の土地保証(CADC)を受けた山で、森と共存して生きる道を自らの手で切り開くために、力強い一歩を踏み出しました。

緩斜面で果樹と食用作物栽培を行うアグロフォレストリー50ヘクタールは、ブロコンで30家族、ブハガンで 20 家族の受益者が決まりました。果樹や樹木が育つまでの収入源はジャガイモなどの間作です。両村とも市場へのアクセスは困難で馬が唯一の輸送手段ですが、ジャガイモはすでに換金して貴重な収入となりました。

ワシなど野生動物最後の聖域といわれている原生林での焼畑もやめました。水、野生動物、薬草、あらゆるものを育む貴重な原生林と共生する方法を学び、資金と技術が供与されたからです。PFP農業スタッフ2名が、技術指導に当たっています。

あと2ヶ月で完了です！

パグナイ・アグロフォレストリ・プロジェクト

— イオン環境財団助成事業 —

本事業は同じくダグマ山系の村で実施されており、20 ヘクタールのアグロフォレストリーと、10ヘクタールの植林が目的です。後者は山腹の急斜面が対象で、地滑りや土壌浸食の危険が迫っている地域です。村の共有地のため、作業は住民全体で行います。

アグロフォレストリーは、傾斜地農法と収入向上に意欲的な 20 名が対象となりました。共用する水牛と鋤も購入しました。間作のピーナッツと陸稲は8月に最初の収穫があり、ピーナッツは豊作で販売もできました。

10月には接木済み果樹苗とココやしが植栽予定地に運ばれました。車が通れず、パグナイ中心部から約3kmの道を村人総出で2日間かけて運んだのです。

終了予定の 3 月末にはすべての植栽作業が完了し、一部で苗木の周囲1m範囲の草刈、追肥など第1回の手入れが実施される予定です。

＊イオン環境財団から3年間助成をいただき、先住民族が森と生活を取り戻す上で価値ある実績を残すことができました。なお、当会は連絡窓口として申請・モニター・報告作業に関わりましたが、助成は PFP との直接契約であり、HANDS 事業収支には含まれていません。

5年後の実り

— サキン一家のサクセスストーリー —

これは FOT(少数民族里親の会)と PFP の協働による 2001 年度のアグロフォレストリー受益者の1人モリス・サキンさんの事例です。

一家の以前の生業は山腹のわずかなコーン栽培と炭焼きだけで、現金収入は極めて少なく不安定でした。事業開始から 5 年が経過し、ようやく成果を享受できるようになりました。妻も子どもたちも自分の畑で取れたマンゴーやランブタンを食べられる幸せをかみしめています。果樹の間に植えたバナナ、サツマイモ、豆などによる収入は週平均600ペソにもなります。特にバナナは毎週 100kgも市場に出しています。今年からはマンゴーもたくさん実をつけるようになり、甘みも増して市場に出せるでしょう。

収入の面だけでなくモリスさんが事業で得たものは、等高線耕作で土壌浸食を防ぐ傾斜地農法の有効性です。人間が生き続けるには生態系に配慮することの重要性に目覚めたとのことでした。